

岐阜県美濃 - 関地域における美濃帯 上麻生ユニットの地質と放散虫年代 Geology and radiolarian ages of the Kamiaso unit in the Mino-Seki area, Gifu Prefecture, central Japan

北川 祐介^{1*}, 松岡 篤²

Yusuke Kitagawa^{1*}, Atsushi Matsuoka²

¹ 新潟大学大学院自然科学研究科環境科学専攻地球科学コース, ² 新潟大学理学部地質科学科

¹Graduate School of Science and Technology, Environmental Science and Technology, Earth Science, Niiga, ²Department of Geology, Faculty of Science, Niigata University

西南日本の付加体の1つである美濃テレーンは、付加体の中でも数多くの調査がなされ、岩相及び構造の違いから、複数の構造層序単元に区分されている。しかし多くの研究がなされている美濃帯の中でもデータの乏しい地域はいくつも存在する。岐阜県中央部の美濃・関地域はそのような地域の1つであり、Wakita(1988b)による広域的な調査によって、チャート・砕屑岩シーケンスが繰り返す整然相で特徴づけられる上麻生ユニットが分布するとされている。

美濃・関地域において詳細な野外調査を行ったところ、従来上麻生ユニットとされていた地質体は、地質構造や岩相の違いがみられることから、整然相からなる上部ユニットとメランジ相を主体とする下部ユニットに区分できることが明らかになった。上部ユニットは海洋プレート層序の連続性のある程度残して地層が積み重なる構造を持つ。チャートからは Middle Triassic から Late Triassic を示す放散虫が産出した。下部ユニットには、上部ユニットと異なって、礫岩、チャート石灰岩互層、メランジ、玄武岩質岩が分布している。チャートの岩相にも違いがみられ、風化して赤色を呈する黒色チャートが長良川沿いに広く分布している。これらの岩相は、他の地域の上麻生ユニットではあまり見られない。チャートからは Middle Triassic から Early Jurassic、珪質泥岩からは Middle Jurassic、チャート石灰岩互層のチャート層からは Late Triassic を示す放散虫が産出した。また、チャート石灰岩互層の石灰岩層からは、Late Norian を示すコノドンが報告されている(猪郷・小池, 1975)。

下部ユニットは岩相・構造的特徴や産出した放散虫化石が示す年代から、上麻生ユニットとは異なる構造層序単元に帰属する可能性がある。

キーワード: 美濃帯, 上麻生ユニット, 美濃・関地域, チャート, 珪質泥岩, 放散虫

Keywords: Mino terrane, Kamiaso unit, Mino-Seki area, chert, siliceous mudstone, radiolaria